

カキにおけるコナカイガラムシ類の防除対策

1 情報・成果の内容

(1) 背景・目的

近年、カキでフジコナカイガラムシを主としたコナカイガラムシ類の被害が増加傾向にある。しかし、コナカイガラムシ類は微小害虫であること、樹皮の隙間等で増殖する生態等から、防除を困難としている。そこで、コナカイガラムシ類越冬幼虫に対する防除対策を検討した。

(2) 情報・成果の要約

- 1) コナカイガラムシ類越冬幼虫に対して、4月上旬のアプロード水和剤 1,000 倍液散布の効果は高い。
- 2) コナカイガラムシ類越冬幼虫に対して、3月下旬のアルバリン顆粒水溶剤の樹幹塗布 (20~40 g/樹、本剤 1 g 当り水 1 mL の割合で混合し、主幹から主枝の粗皮を環状に剥いだ部分に塗布する) は効果があるが、4月上旬のアプロード水和剤 1,000 倍液散布に比べ効果は劣り、処理に多くの時間が必要である。

2 試験成果の概要

- (1) 試験は、I 区：アプロード水和剤 1,000 倍液 (4 月 4 日散布)、II 区：アルバリン顆粒水溶剤 (3 月 28 日樹幹塗布)、対照区 (無処理) とした。
- (2) 試験園における発生種はフジコナカイガラムシ及びマツモトコナカイガラムシで、フジコナカイガラムシが 89.2% を占めた。
- (3) 対照区 (無処理) では、調査期間中に 382 個体が捕獲 (バンドトラップ) され、発生量はやや多い条件下での検討となった。
- (4) 樹幹塗布は、メーカー資料に基づき、薬量 20g/水 20ml/樹を 4 樹、薬量 40g/水 40ml/樹を 3 樹処理した。粗皮剥ぎ (バークストリッパーによる処理済み、仕上げのみ)、薬液調整、塗布作業で 15.7 分/樹/人を要した。
- (5) いずれの処理も対照区 (無処理) と比較すると効果があり、特に I 区の効果が高かった。

表 1 コナカイガラムシ類に対する各処理の効果 (2011)

| 試験区 | 4/15-5/17 | | 5/17-6/7 | |
|--------------------------------|-------------------|------------------------------|-------------------|------------------------------|
| | 総捕獲数 ^a | 密度指数 ^b (対無処理比) | 総捕獲数 ^c | 密度指数 ^b (対無処理比) |
| I 区：アプロード水和剤 1,000 倍液の 4 月上旬散布 | 35 | 11.2 | 2 | 4.3 |
| II 区：アルバリン顆粒水溶剤の 3 月下旬樹幹塗布 | 79 | 25.2 | 19 | 40.4 |
| 対照区 (無処理) | 313 | 100.0 | 47 | 100.0 |

^a 幼虫及び雄蛹の総捕獲数

^b 密度指数 = (試験区の捕獲数 / 対照区 (無処理) の捕獲数) × 100

^c 成虫及び卵の総捕獲数



手順①：地際から上部に向かって主幹分岐部（概ね30cm程度）まで粗皮を削る。



手順②：薬液を調整後、しっかりと泡立て、粗皮を削った部分に塗布する。

図1 アルバリン顆粒水溶剤樹幹塗布処理方法の概要

3 利用上の留意点

(1) アルバリン顆粒水溶剤の樹幹塗布の処理方法は、最新のメーカ資料に基づいて実施する。

4 試験担当者

| | | |
|-------|-------|------|
| 環境研究室 | 主任研究員 | 中田 健 |
| 河原試験地 | 地 長 | 小谷和朗 |
| 環境研究室 | 室 長 | 田中 篤 |